

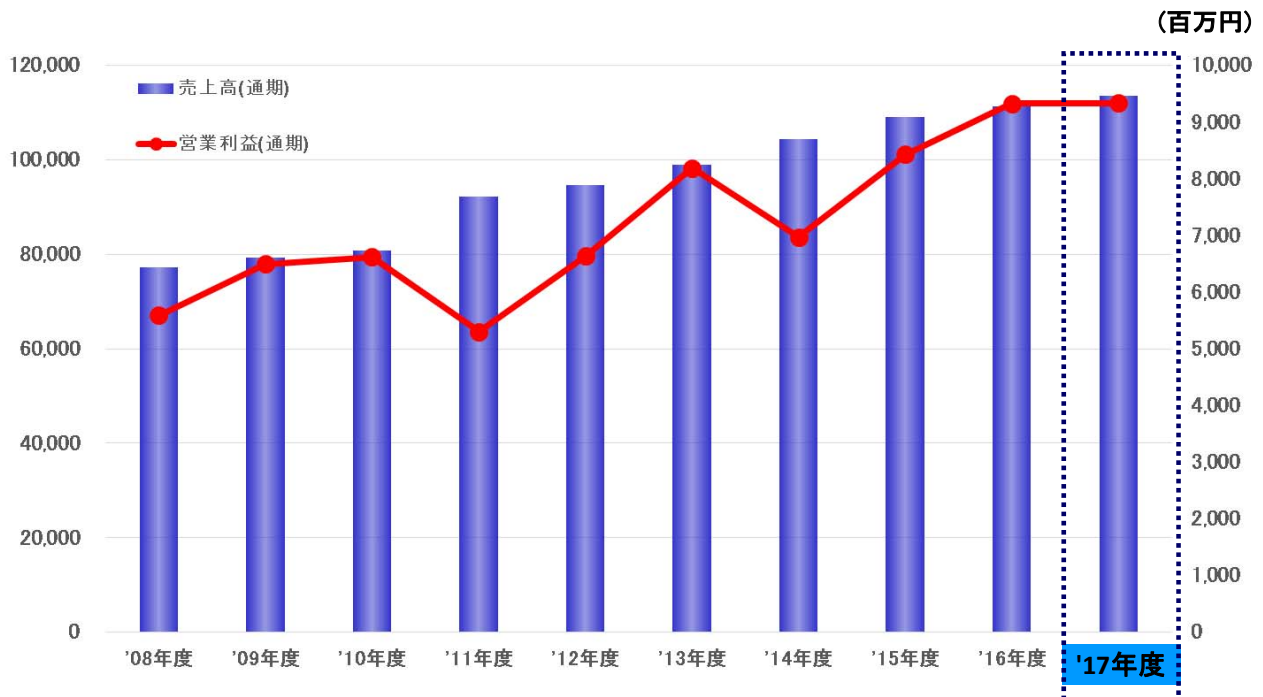
# 株式会社ビー・エム・エル

## 2017年度決算説明会

2018年5月11日  
 代表取締役社長  
 近藤 健介

### 10年間 業績推移

【売上高・営業利益ともに過去最高を更新】





# 前年度比較表

(百万円)

	'16年度	'17年度	増減額	増減率	計画	計画差	達成率
売上高	111,243	113,502	2,258	2.0%	114,000	-498	99.6%
検査事業	105,929	107,765	1,836	1.7%	108,550	-785	99.3%
臨床検査	101,534	103,263	1,728	1.7%	104,050	-787	99.2%
その他検査	4,394	4,502	107	2.4%	4,500	2	100.0%
医療情報システム	3,883	4,101	217	5.6%	3,975	126	103.2%
その他事業	1,430	1,635	204	14.3%	1,475	160	110.8%
営業利益	9,329	9,337	8	0.1%	9,400	-63	99.3%
経常利益	9,711	9,811	99	1.0%	9,750	61	100.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,948	5,988	39	0.7%	5,960	28	100.5%

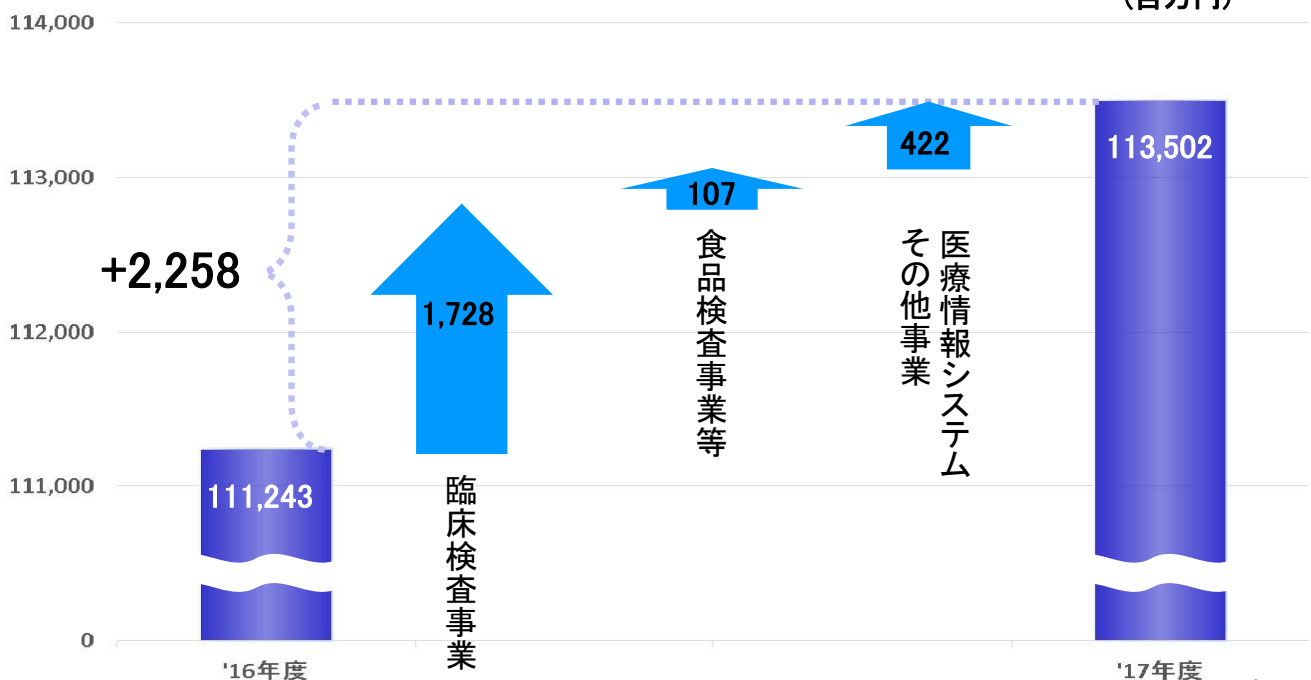
3



# 事業別売上増減の内訳

売上高 前期比 22億58百万円(2.0%)増収

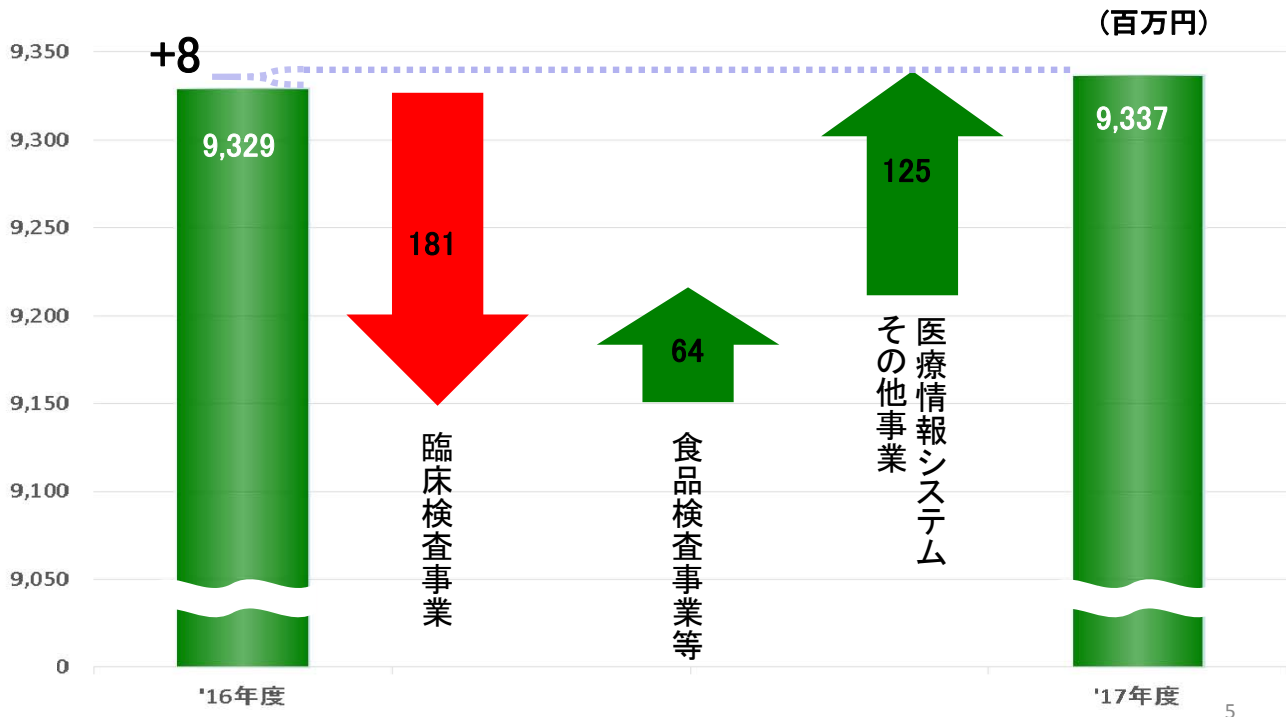
(百万円)



4

## 事業別利益増減の内訳

営業利益 前期比 8百万円(0.1%)増益

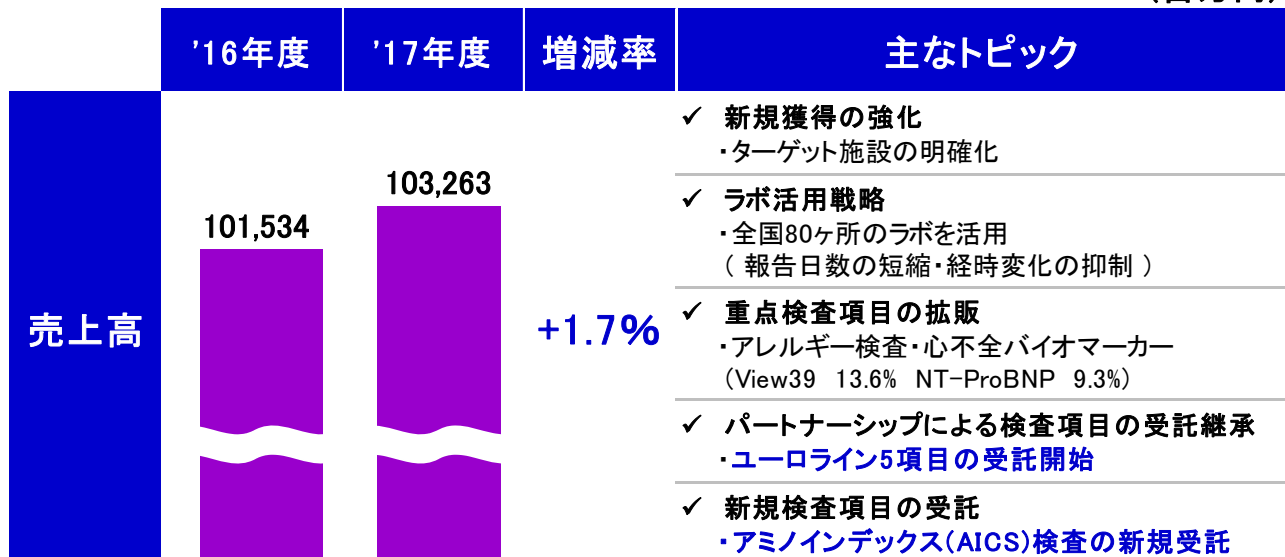


5

## 臨床検査事業の概要

売上高 1,032億63百万円  
前期比 17億28百万円(1.7%)増収

(百万円)



6

## 研究開発活動

### ✓ '17年度に開発した主な独自受託検査

#### ◇ 難病の遺伝学的検査

- ・脆弱X症候群ならびにその関連疾患の遺伝子解析
- ・脊髄性筋萎縮症 (SMA) の遺伝子解析  
→ 遺伝子治療薬投与の方針決定に有用

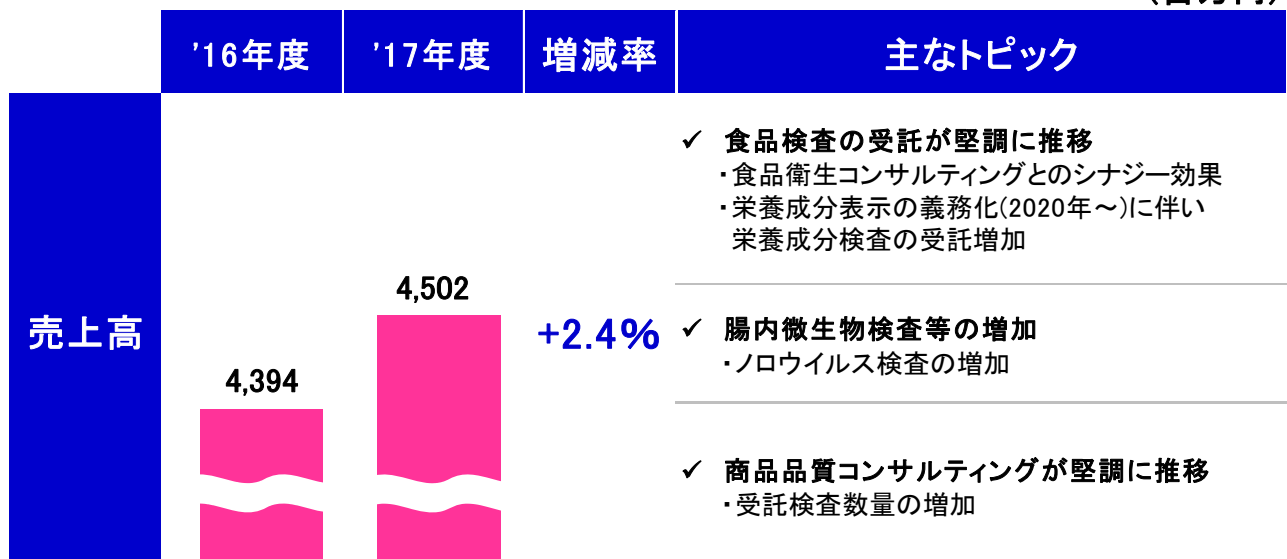
#### ◇ 脂質異常症の遺伝学的検査

- ・次世代シーケンスによる家族性高コレステロール血症 (FH) の遺伝子解析  
→ FHの正確な診断、および家族内FH未発症者の発見により、早期治療が可能となり、冠動脈疾患の発症予防

# 食品検査事業等の概要

売上高 45億2百万円  
前期比 1億7百万円(2.4%)増収

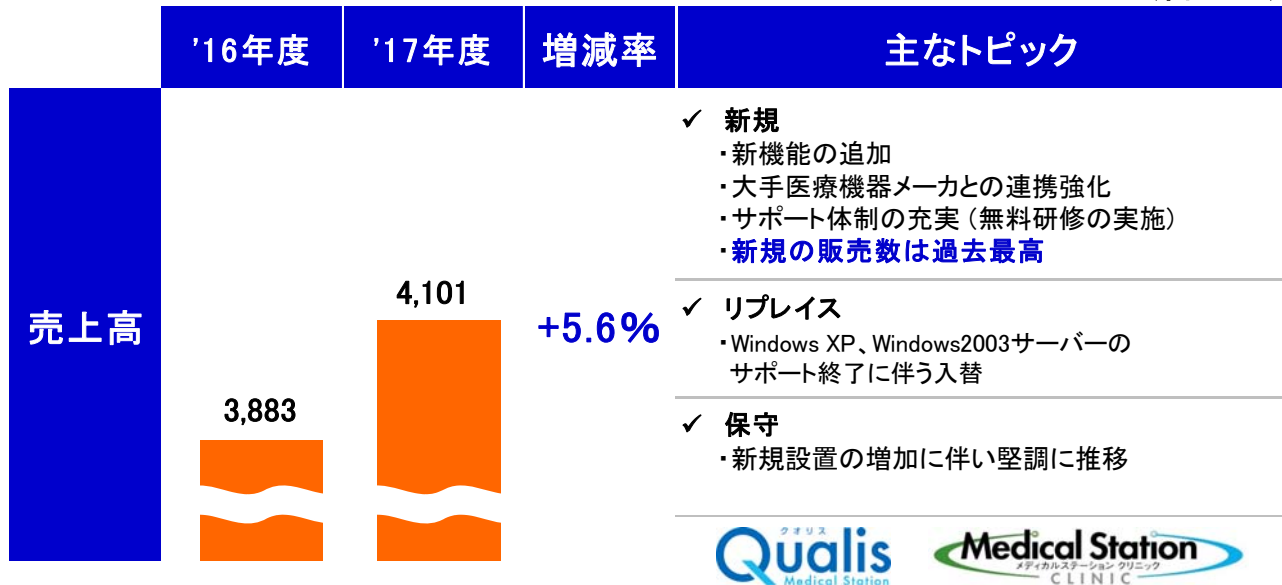
(百万円)



## 医療情報システム(電子カルテ)の概要

売上高 41億1百万円  
前期比 2億17百万円(5.6%)増収

(百万円)

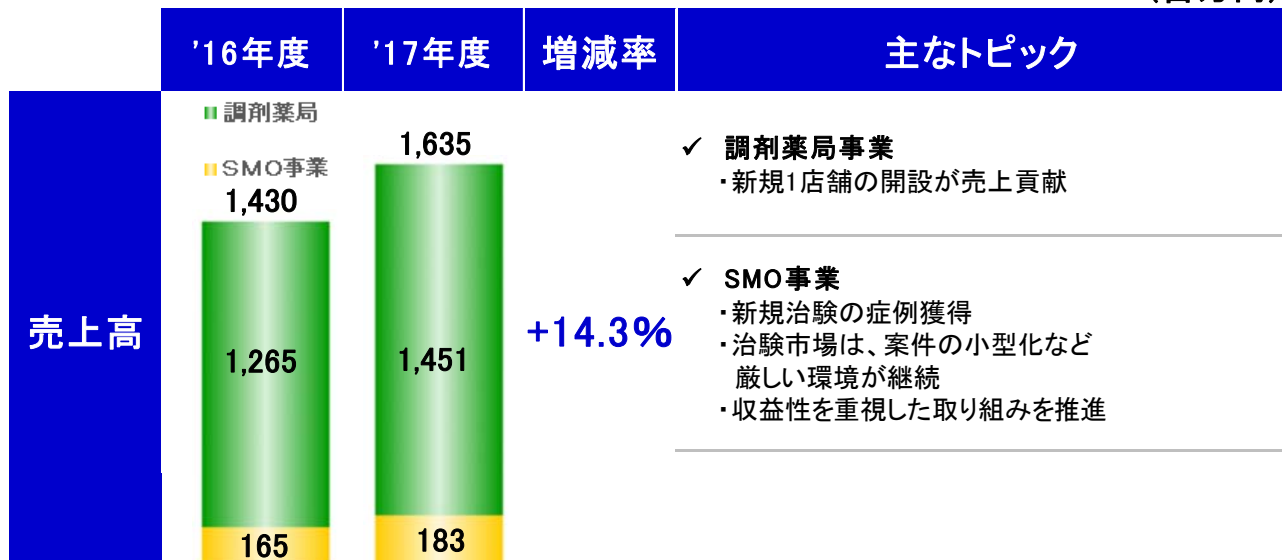


9

## その他事業の概要

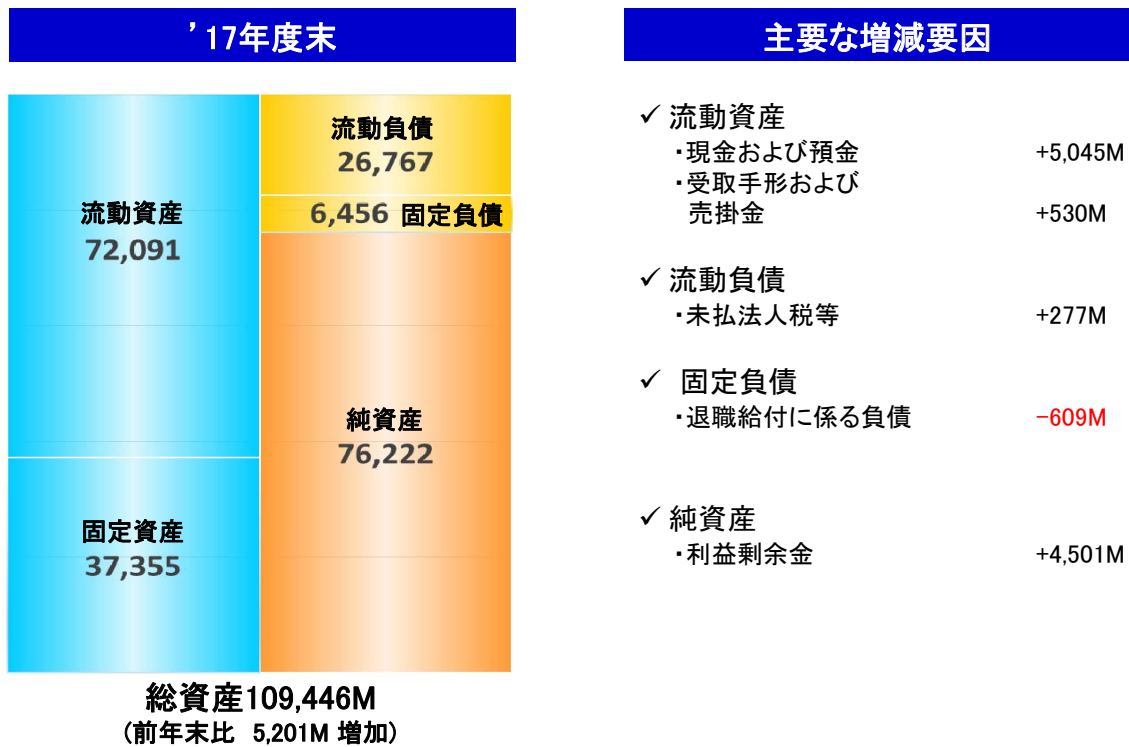
売上高 16億35百万円  
前期比 2億4百万円(14.3%)増収

(百万円)



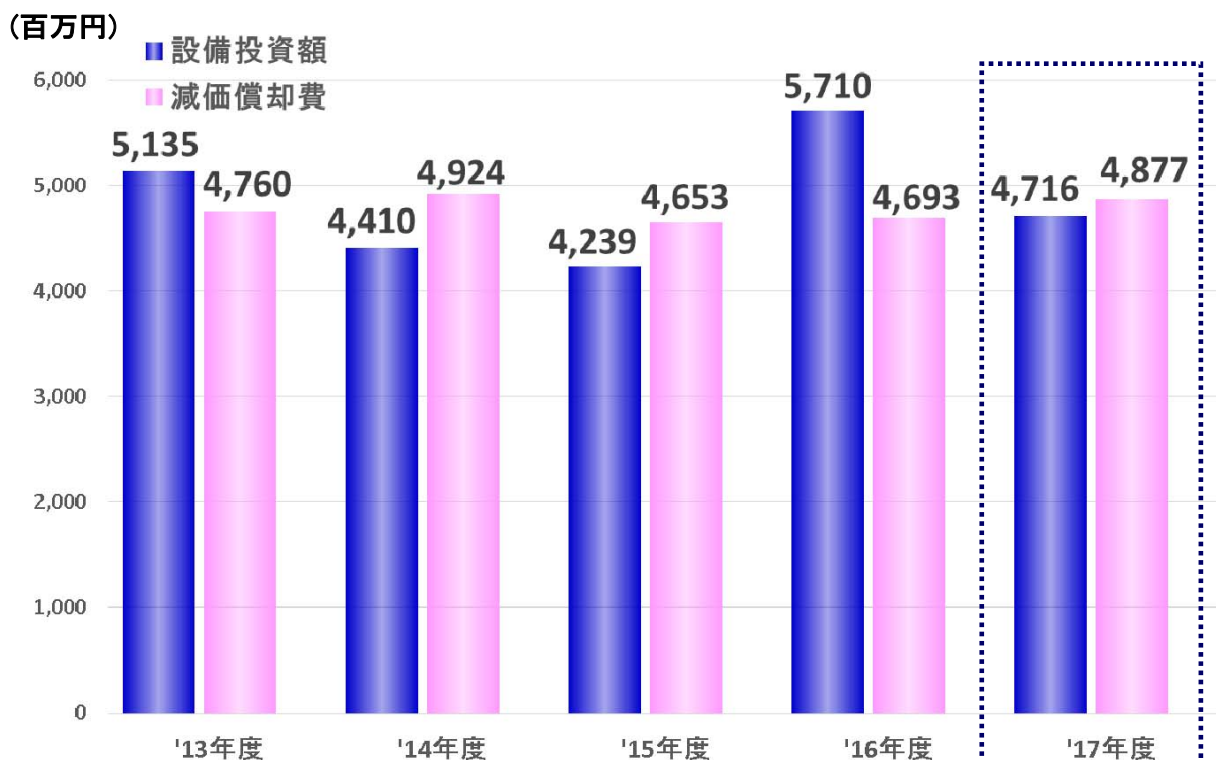
10

## 連結貸借対照表の概要



11

## 設備投資・減価償却費の概要



12

## キャッシュフローの概要

(百万円)

	'16年度	'17年度	増減
<b>営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>11,307</b>	<b>12,079</b>	<b>771</b>
税金等調整前当期純利益	9,514	9,774	260
減価償却費	4,845	5,019	174
のれん償却額	315	312	-2
法人税等の支払額	-3,450	-2,991	459
その他	82	-36	-119
<b>投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>-5,239</b>	<b>-3,538</b>	<b>1,701</b>
定期預金の預入による支出	-5,432	-4,314	1,117
定期預金の払戻しによる収入	4,384	4,825	441
有形固定資産の取得による支出	-3,122	-2,809	312
無形固定資産の取得による支出	-1,111	-1,345	-233
その他	41	105	63
<b>財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>-2,856</b>	<b>-2,983</b>	<b>-127</b>
リース債務の返済による支出	-1,361	-1,349	12
配当金の支払額	-1,380	-1,487	-106
その他	-114	-147	-32
現金及び現金同等物の期首残高	34,910	38,122	3,211
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>38,122</b>	<b>43,679</b>	<b>5,556</b>

13

## 中期経営計画について

- ・ 第6次中期経営計画レビュー
- ・ 第7次中期経営計画

14

# 第6次中期経営計画レビュー

(2015.4-2018.3)

15

# 第6次中期経営計画レビュー

～創立60周年を迎え新たな企業創生に向けてのスタート～

**医療界に信頼され  
選ばれる企業をめざす**

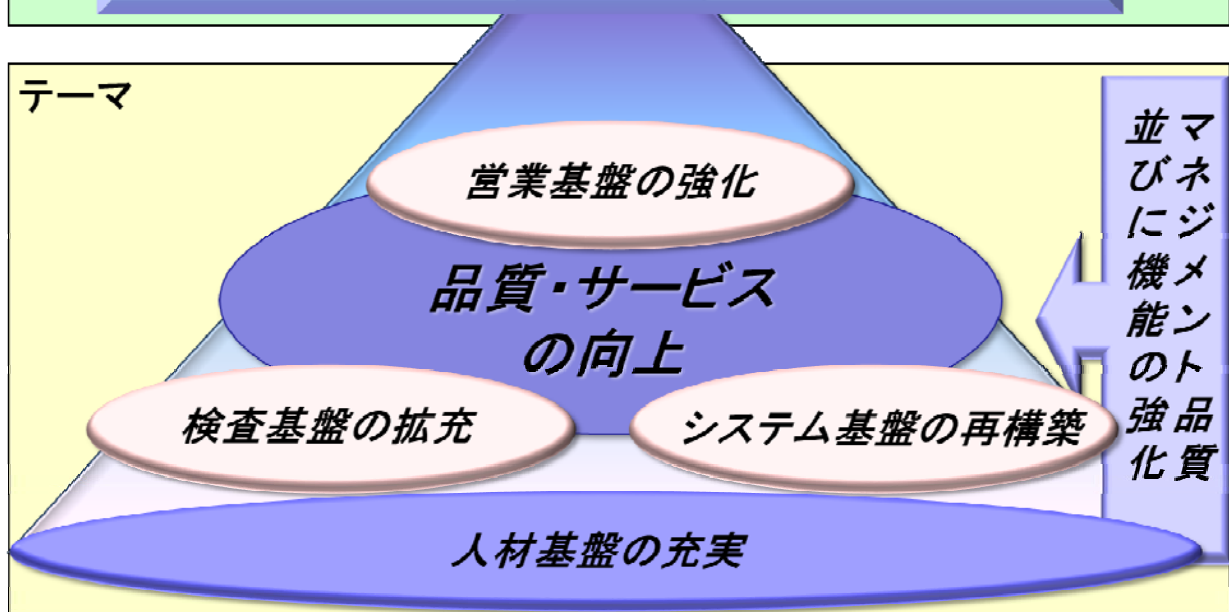
16



コンセプト

業界トップ企業としての基盤構築と強化

テーマ



<品質・サービスの向上のための施策>

地域戦略の推進

全国主要7ヶ所に地域完結型ラボを配置し、迅速に検査結果を報告する体制を構築



## <品質・サービスの向上のための施策>

### 病理学検査の精度向上

PCLジャパンにおけるダブルチェック率向上による  
ミス・トラブルの削減

✓ 組織診検査

⇒ 病理診断医の増員によるダブルチェック体制の構築

✓ 細胞診検査

⇒ 細胞診自動判定支援装置の導入による  
ダブルチェックと同等の効果を実現する体制の構築

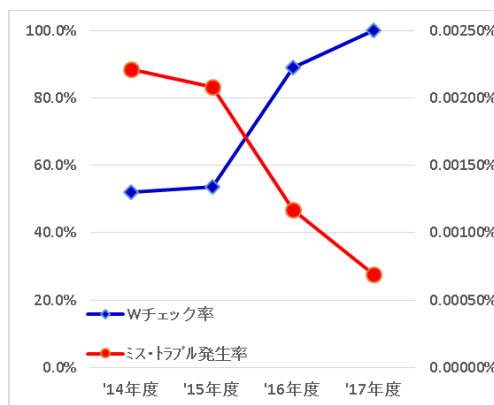


(細胞診自動判定支援装置)

## <品質・サービスの向上のための施策>

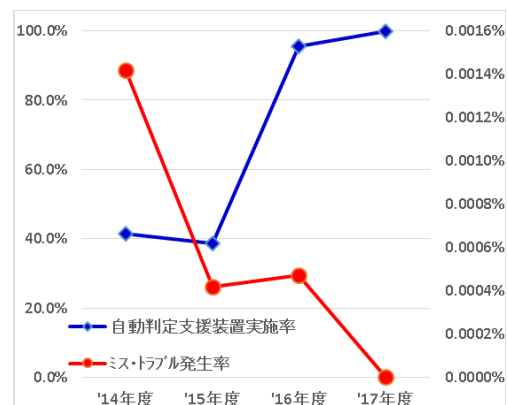
### 病理学検査の精度向上

組織診検査 ダブルチェック率と  
ミス・トラブル発生率



$r = -0.998$

細胞診自動判定支援装置実施率と  
ミス・トラブル発生率



$r = -0.651$

r = 相関係数

## 第6次中期経営計画レビュー

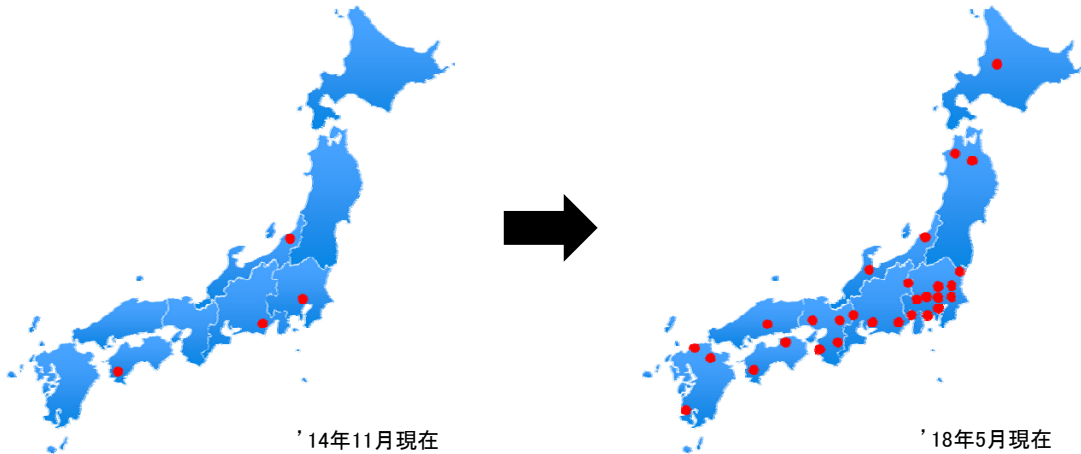
### <品質・サービスの向上のための施策>

#### 血清分離ラボ増設

早期に血清分離を行うことにより、  
検体の経時変化を最小限にする

プロジェクト開始前 4ヶ所

現在 29ヶ所へ増設



21

## 第6次中期経営計画レビュー

### <品質・サービスの向上のための施策>

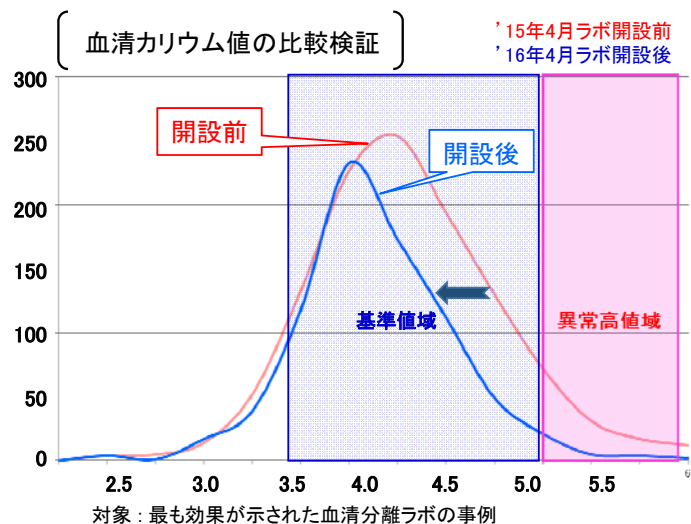
#### 血清分離ラボ増設

分離率 **'14年11月 75.6%** → **'18年4月 97.4%**

対象 : 総研搬入検体

分離率 = 分離済検体数 / 総検体数

（'14年 63,879検体 / 84,497検体）  
（'18年 69,556検体 / 71,413検体）



22

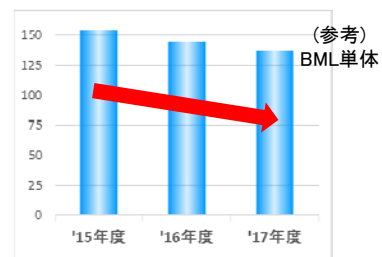
## <品質・サービスの向上のための施策>

### 技能向上促進

非正規従業員の定着率低下対策が重要課題と考え処遇改善を実施

- ✓ 人事制度の改定
  - ・等級制度の導入
  - ・教育制度の導入
  - ・賃金制度の見直し
- ✓ 非正規従業員に対する、正社員登用基準を明確化

⇒ 非正規従業員の退職者数が減少傾向



非正規従業員の退職者数推移

(百万円)

	'14年度 実績	'17年度 計画	'17年度 実績	対'17年度計画 達成額	達成率	対'14年度実績 増減額	増減率
売上高	104,404	110,900	113,502	2,602	102.3%	9,098	8.7%
検査事業	99,382	105,710	107,765	2,055	101.9%	8,383	8.4%
臨床検査	95,427	101,420	103,263	1,843	101.8%	7,836	8.2%
その他検査	3,955	4,290	4,502	212	104.9%	547	13.8%
医療情報システム	3,607	3,790	4,101	311	108.2%	494	13.7%
その他事業	1,413	1,400	1,635	235	116.8%	222	15.7%
営業利益	6,974	8,850	9,337	487	105.5%	2,363	33.9%
経常利益	7,527	9,350	9,811	461	104.9%	2,284	30.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,874	5,600	5,988	388	106.9%	2,114	54.6%

## 第7次中期経営計画 (2018.4-2021.3)

25

## 第7次中期経営計画の位置づけ

【 医療界に信頼され選ばれる企業をめざす 】

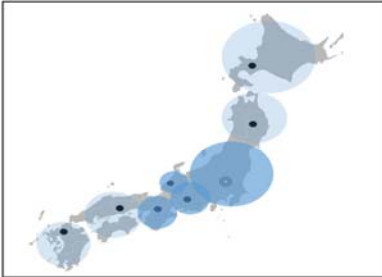


26

【医療界に信頼され選ばれる企業をめざす】

品質・サービス No.1へ

地域サービス No.1



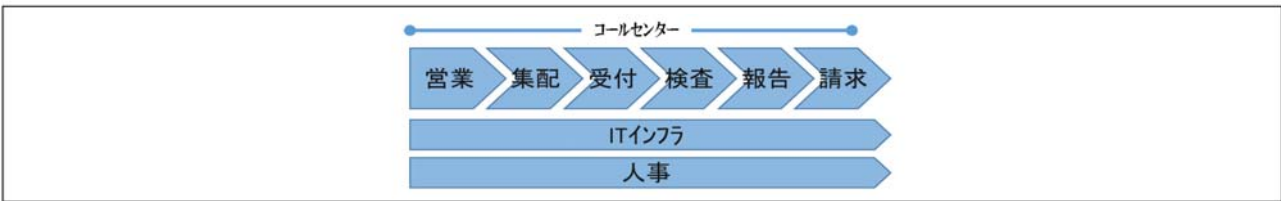
検査ラインナップ No.1



医療界への貢献 No.1



品質 No.1



地域サービス No.1戦略

『地域ごとに最適なサービスを提供します』



- ✓ 地域ごとのマーケティングに基づくラボネットワークの熟成
  - 地域完結型ラボ
  - 首都圏ラボ
- ✓ 集配ネットワークの更なる充実
- ✓ ネットワークを活用した健診事業
- ✓ 友好民間センター・医師会の関係強化
- ✓ 医療関連異業種との連携

# 第7次中期経営計画 ～戦略フレームワーク～

## 検査ラインナップ No.1戦略

『新しい検査技術を追求します』

### 臨床検査事業

生化学	血液学	免疫学
内分泌	一般	染色体遺伝子
微生物	病理学	
造血器疾患関連		

高機能分析機による新検査

### 食品検査事業

- ✓ 検査能力の向上
  - 微生物学検査(細菌検査)
  - 病理学検査
  - 造血器疾患関連検査
- ✓ 高機能分析機を活用した検査項目の開発
  - MSIによるプロテオーム・メタボローム解析
  - NGSによるヒトゲノム解析
- ✓ 食品検査事業(周辺事業)の拡大
  - 腸内細菌検査
  - 食品コンサル(店舗点検)
  - HACCP対応

# 第7次中期経営計画 ～戦略フレームワーク～

## 医療界への貢献 No.1戦略

『医療界の一員として業界の発展に貢献します』



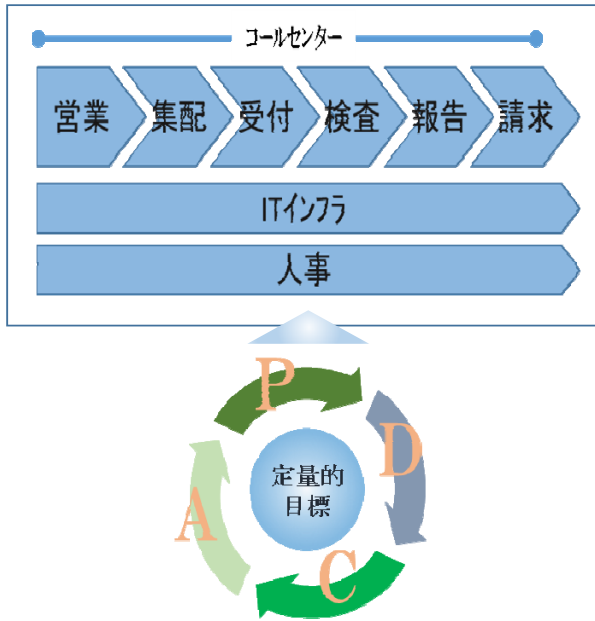
- ✓ ラボ・フォーラムの拡充
- ✓ 臨床研究への積極的関与
- ✓ ビー・エム・エル医療教育基金の普及
- ✓ 医療機関向け各種勉強会の実施
- ✓ 学術セミナーの開催
- ✓ 学会・シンポジウムへの参画
- ✓ 医療関連事業への寄付活動

未来の医療を支える  
臨床検査技師を志すあなたへ

公益財団法人 ビー・エム・エル医療教育基金

## 品質 No.1戦略

『ワンランク上の品質を目指します』



- ✓ 品質管理の高度化
- ✓ ラボエンジニアリングによる効率化
- ✓ AI・IoT等を活用した業務改革
- ✓ 顧客対応の高度化(新コールセンター)
- ✓ 部門ごとのQC活動
- ✓ 5S活動の強化
- ✓ 人材教育・能力開発の強化

# 第7次中期経営計画

## 経営管理

### 事業展開

- ✓ アライアンスの強化
- ✓ 海外臨床検査市場の調査・研究

### IR活動の充実

- ✓ 適切な経営指標の開示
- ✓ 投資家との対話強化
- ✓ 安定的な配当政策

### ガバナンス

- ✓ CGCへの適切な対応
- ✓ グループシナジーの発揮

### リスク管理

- ✓ BCPの高度化
- ✓ 内部監査の拡充
  - 営業/検査/システム/管理

### 人事・総務

- ✓ 人事戦略再構築
  - ダイバーシティ
  - 働き方改革
- ✓ コスト削減



## 第7次中期経営計画 ～数値目標～

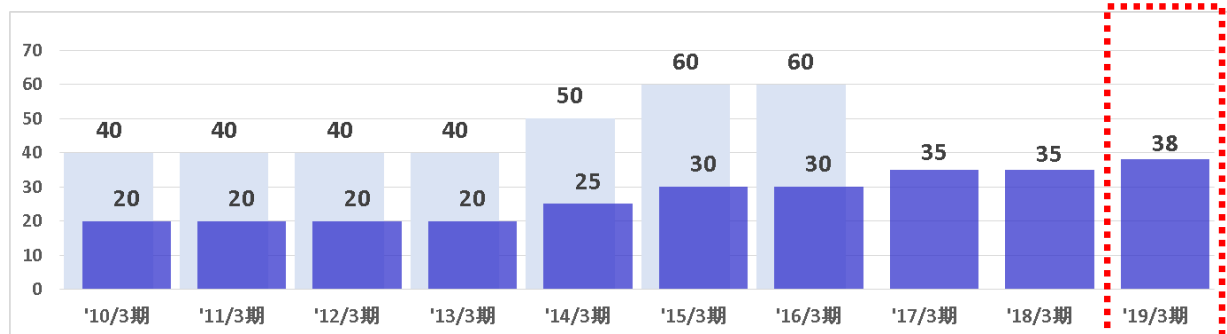
	'17年度	'18年度	増減額	増減率	(百万円)		
					'20年度	対'17年度 増減額	増減率
売上高	113,502	115,100	1,598	1.4%	120,950	7,448	6.6%
検査事業	107,765	109,410	1,645	1.5%	115,090	7,325	6.8%
臨床検査	103,263	104,640	1,377	1.3%	109,700	6,437	6.2%
その他検査	4,502	4,770	268	6.0%	5,390	888	19.7%
医療情報システム	4,101	4,190	89	2.2%	4,370	269	6.6%
その他事業	1,635	1,500	-135	-8.3%	1,490	-145	-8.9%
営業利益	9,337	9,550	213	2.3%	10,750	1,413	15.1%
経常利益	9,811	10,050	239	2.4%	11,200	1,389	14.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,988	6,130	142	2.4%	6,750	762	12.7%

33

## 第7次中期経営計画 ～資本政策～

### 配当金

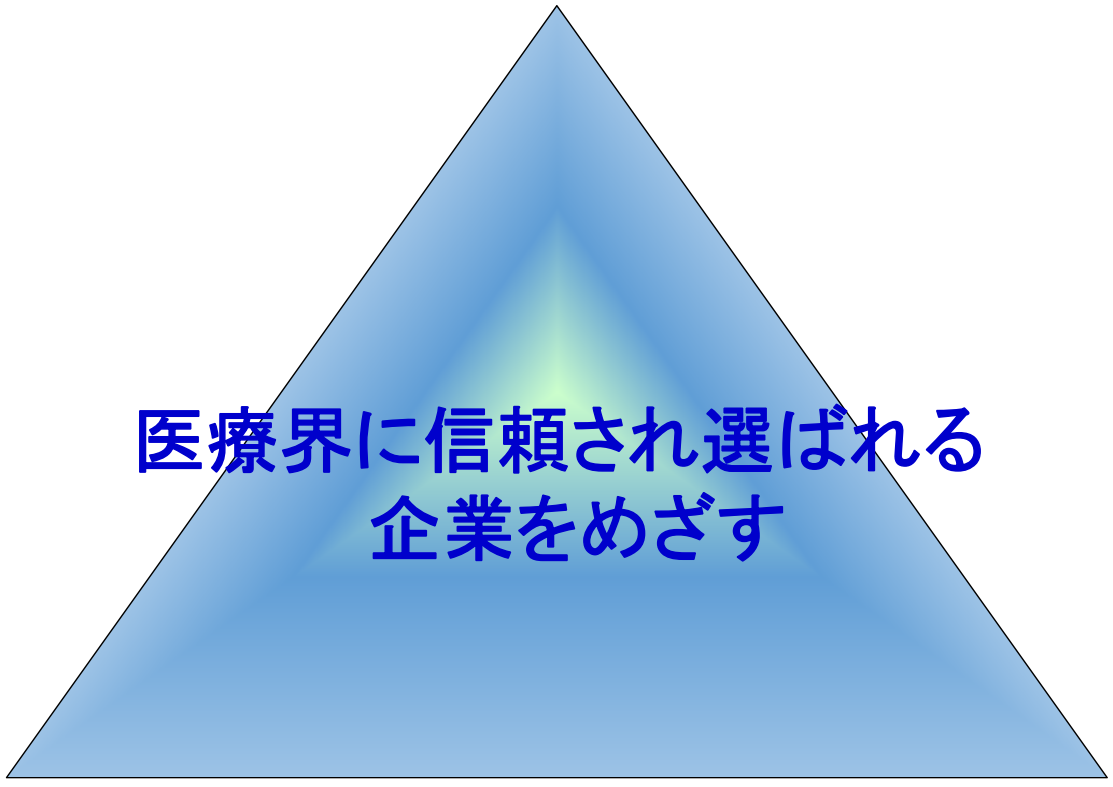
安定配当の維持、継続を基本方針とします



(注) '16年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割しております。

(予想)

34



医療界に信頼され選ばれる  
企業をめざす

## 当資料取り扱い上の注意点

### <将来に関する記述等についてのご注意>

本資料に記載されている将来に関する見通し、戦略、計画に関する記述等は、当社が現在入手している情報に基づく本資料作成時点での種々の前提に基づいた当社の判断であります。従ってこれらの記述・前提は、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。今後、様々な要因によって記載の見通しと異なる結果を生じえるリスクを含んでいます。また、今後予告なしに変更されることがあることをご了承下さい。